

発掘された大阪 2007

水都大阪の国際交流史

【発掘された日本列島 2007 地域展】

会期 : 平成20年1月19日(土)～平成20年3月2日(日)

会場 : 大阪府立弥生文化博物館 特別展示室

大阪の地は古くから海を介して大陸とつながっていました。河川を利用した水上交通も発達し、港も整備されていました。大阪が「水都」と呼ばれる所以でもあります。

弥生時代では「貨泉」、古墳時代では渡来人がもたらした多くの文物と船形埴輪などが、交流の一端を垣間見せています。

古代では隋や唐、新羅などの外交使節が頻繁に往来する起点のひとつとなり、「難波津」をはじめとする港を窓口として、難波宮を中心とした国際都市大阪の基盤が形づくられました。

中近世になると、政治の中樞は大阪を離れますが、大坂城とその城下町、堺環濠都市などは、港湾都市としても発展し、中国・朝鮮半島のみならず、遠くヨーロッパからの文物が持ち込まれるなど、さらなる広がりを見せています。

今回の展示では、海・港・交流をテーマに古代から近世にかけて海を越えて大阪にもたらされたモノを中心に展示し、大阪の地が日本の歴史上で果たした役割について考えます。

主催 大阪府立弥生文化博物館・文化庁

共催 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・全国埋蔵文化財法人連絡協議会

特別協力 朝日新聞社

協力 インターネットミュージアム事務局

後援 NHK

協賛 株式会社ジャパン通信情報センター・株式会社東都文化財保存研究所

入館料 一般 600円 65歳以上・高大生 400円
※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料 ※20名様以上の団体は2割引

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

<会期中の休館日>1/21(月)28(月)2/4(月)12(火)18(月)25(月)

アクセス JR阪和線「信太山(しのだやま)」駅下車 西へ約600m
南海本線「松ノ浜」駅下車 東へ約1,500m
国道26号線「池上町」交差点 南西角

- I. 弥生時代の交流
八尾市亀井遺跡、東大阪市巨摩遺跡ほか
- II. 古墳時代の交流
大阪市長原高廻2号墳、堺市大庭寺遺跡ほか
- III. 難波津
大阪市難波宮跡、藤井寺市大津道推定地、羽曳野市野々上遺跡、奈良市平城京跡ほか
- IV. 中世の交流
大阪市大坂城下町跡、尼崎市大物遺跡
- V. 堺
堺市堺環濠都市遺跡
- VI. 大坂城と大坂城下町
大阪市大坂城跡、大阪市大坂城城下町跡

特 別 講 演 会

- 第1回：1月27日（日） 「国際関係からみた古代の難波」
直木孝次郎（大阪市立大学名誉教授）
 - 第2回：2月16日（土） 「日本文化を刺激した外来文物」
水野正好（財団法人大阪府文化財センター理事長）
- 時 間：いずれも午後2時～4時
場 所：1階ホール
聴講料：無料（要入館料）
定 員：170名（受付は午後1時30分から／午前11時から整理券を配布します）

ワークショップ

- 開催日：2月3日（日）、2月24日（日）
- 時 間：いずれも午後2時～3時30分
- 場 所：地階セミナールーム
- 参加費：無料（大人は要入館料）
- 定 員：20名（当日先着順 受付は午後1時30分から）

学芸員による展示解説

- 期間中の日祝日
- 時 間：午前11時から
- 場 所：特別展示室
- ※音声ガイドもあります（貸出無料）



唐三彩（平城京跡）



西洋人をかたどった水滴
（左：堺環濠都市遺跡・
右：大坂城下町跡）



龍の文様が付いた中国産の壺
（堺環濠都市遺跡）